

□■養成所ニュースプラス第 16 号 2024□■

社会福祉士国家試験の 受験申し込みの受付が昨日から始まりました。当養成所からも要件が確定した方から「修了見込証明書」を送付しています。必ず確認してください。

Plus Quiz は「社会調査の基礎」（現、社会福祉調査の基礎）から「面接法」を取りあげます。今回も選ばなかった選択肢のどこを直せば適切になるか合わせて考えてみましょう。

■Plus Quiz・・・・・・・・

【第 36 回問題 89】調査手法としての面接法に関する次の記述のうち、最も適切なものを 1 つ選びなさい。

1. 構造化面接では、対象者に語りたいことを自由に話してもらうことが重要である。
2. 非構造化面接では、調査者は事前に 10 項目以上の質問項目と質問の順番を設定し、その順番どおりに質問していく必要がある。
3. 半構造化面接では、インタビューのおおむね半分程度の時間を、質問内容や質問の順番などが詳細に決められた質問紙によって面接が進められる。
4. 面接調査では、表情や身振りといった非言語表現も重視する。
5. グループ・インタビューの調査者は、対象者同士の会話を促さないようにする。

正答と解説は最後に記載してあります。

■Yoseijo Info・・・・・・・・

・(35 期生) 9 月 2 日に、該当者に対して修了見込証明書類一式をレターパックライトにて発送いたしました。←New
修了見込証明書は国家試験の受験申込に必要な重要書類となりますので、1 週間程経っても届かない場合は当養成所までご連絡ください。

・(35-36 期生) 教育訓練給付制度（専門実践教育訓練）の支給希望の方へ
申請書類一式は原則として、再発行はできませんので、お取り扱いにはご注意ください。
本養成所からの申請書類発行のため、「受給資格者証と公的身分証明書のコピーの提出」及び「レポートの提出」「スクーリングへの出席」「授業料の納入」が必須となります。

※本養成所受講認定基準を満たす支給希望者には、10 月末日付けで、支給申請書類一式を発送いたします。

お手元への到着は 11 月上旬頃の予定です。今しばらくお待ちください。

・受講の手引の表紙裏（表紙の次のページ）に“レポート作成・提出チェックリスト”があります。
レポートの作成・提出の前に必ず確認してください。

■Test Info・・・・・・・・

国家試験に関する情報をお届けします

・第 37 回国家試験は、令和 7 年 2 月 2 日（日）です。

詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1353205&c=3246&d=99c7>

※試験時間、試験科目（午前・午後の内訳）が公開されました。

・第 37 回社会福祉士国家試験『受験の手引』請求窓口が開設されました。

詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1353206&c=3246&d=99c7>

※上記 URL にアクセスし「3 申し込み手続き方法」を確認してください。

・第 37 回国家試験から適用する社会福祉士国家試験合格基準並びに総試験時間数が公表されました。

詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1353207&c=3246&d=99c7>

・第 37 回社会福祉士国家試験の受験申込受付が始まりました。←New

詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1353208&c=3246&d=99c7>

・日本ソーシャルワーク教育学校連盟主催の全国統一模擬試験のご案内です。

詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1353209&c=3246&d=99c7>

※締め切り間近ですので、検討されている方は早急にご確認ください。

■Plus Info

その他の情報をお届けします

・日本知的障害者福祉協会では様々な情報を発信しております。

詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1353210&c=3246&d=99c7>

■Back Number

過去のバックナンバーはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1353211&c=3246&d=99c7>

■Plus Column

【受験対策ミニ講座第 10 号／スクーリング会場の声から】

スクーリング2では、35期生の皆さんに「受験対策に関するアンケート」をお願いし、気になる受験対策本や模擬試験等についてうかがいました。その結果やスクーリング会場で聞いた皆さんの声から、今号はお伝えしていきます。

国家試験ガイダンスでは、新出題基準をカバーするためには、頻出項目を過去問で、新たな項目を受験参考書で取り組むというポイントをお伝えしました。既にご自身のスタイルで受験勉強を始めている方も、そのやり方を続けつつ新出題基準についても意識してください。

まずは、受験参考書です。中央法規「受験ワークブック（共通・専門）」「合格テキスト」、メディックメディア「レビューブック」を挙げた方がそれぞれ2～3割で、その他にもユーキャン「書いて覚える！ワークノート」を使っている方も複数いました。受験参考書は情報量と編集方法に違いがあります。最後まで付き合うことのできる参考書かどうか実物を手に比較できたことと思います。

過去問は4割以上の方が中央法規を選んでいました。使ってきたテキストとの親和性を理由に挙げる方が多かったです。メディックメディアを選んだ方では、基本的な問題を明示している点、重要項目ごとに過去問をまとめている点を挙げる方がいました。

最後は、模擬試験です。模試の関心は9割と高く、具体的に8月、10月等に受験予定と答えていた方もいました。受験理由は6割以上の方が「現時点で取れる点数を知りたい」、約5割の方が「不得意科目を知りたい」を挙げていました。何人かの方からは、模試は2回受け、在宅受験＋会場受験、A社＋B社の組み合わせを考えているという話も聞けました。また、模擬試験を受けないという方からも、タイパ、コスパを考えて「模擬問題集」に取り組むという話もありました。過去問は当然ながら旧試験の科目、出題数、順番です。模試や模擬問題で新しい試験の体験をすることが、今回はより重要だと考えます。

以上、3点について紹介しました。ほっとしたり、刺激にしてもらったり参考になれば幸いです。次回は、テキストを読む時間がなく、忙しくてまだ受験勉強を始められていない方に向けてお伝えします。

【Plus Quiz 正答と解説】

「社会調査の基礎」では、量的調査と質的調査から3～5問が毎年出題されてきました。新出題基準でも、量的調査の方法で5つの中項目、質的調査の方法で5つの中項目が示されています。小項目と合わせて確認しておきましょう。今回は、質的調査から「面接法」を取り上げました。「観察法」「データの分析方法」も頻出です。レポート課題に苦労した皆さんは記憶にも残っていると思います。

この科目は、「社会調査の基礎」から「社会福祉調査の基礎」に科目名が変わり専門科目から共通科目に移りました。新出題基準には「ソーシャルワークにおける評価」が新たに加わり、ソーシャルワーク実践における評価が強調されています。この項目は、「地域福祉の理論と方法」や「相談援助の理論と方法」等の科目でも出題されてきました。過去問の活用でカバーしましょう。

1. ×構造化面接は、事前に質問項目や順番を決め、どの対象者にも同じように進めます。対象者に自由に話してもらうことはありません。
2. ×非構造化面接は、対象者に自由に話してもらいます。質問項目や順番を決めることはありません。
3. ×半構造化面接は、事前にある程度の質問項目を作っておきますが、対象者の語りに応じて新しい質問をしたり、決めていた質問を変更したりします。半分程度の時間で調査方法を変えるということではありません。
4. ○面接調査では、非言語表現も重視します。調査後の逐語録分析においても重要な要素になるので、記録をする必要があります。
5. ×グループ・インタビューは、対象者間の相互作用により語りを促し多くの情報を得ることができます。対象者同士の会話を促す必要があります。

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19 K D X 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus